



# AGI時代のエンジニア戦略

～変革のナビゲーターとして生き残るために～

智夫 作成者：智夫 鈴木



# AGIの進化と「タスク型AI」への移行



AIは「プロンプト型」から「タスク型」へ進化しつつある



目的を与えるだけで、AIがサブタスクを分解し、自律的に進行



最初にこの波を受けるのは、プログラミングやエンジニアリング領域



エンジニアはAGIによる自動化の第一の影響者=最初の適応者

# エンジニアは"最初の適応者"である



## AIとの共創経験

- AIと共創し、日常的にタスクを委譲してきた経験をもつ
- Copilot, GPT, 自動デプロイ、テスト生成など既に実践中
- AIの使い方だけでなく、使いどころを判断できる
- 実体験を通じて「AI導入・運用・改善」の現場感覚を得ている

# 次の社会設計のアーキテクトとしてのエンジニア



## 変革のナビゲーター

エンジニアは、他業種がAGIと向き合う時の"変革のナビゲーター"



## 経験の活用

医療・法務・製造・教育などへの波及時にその経験が生きる



## AIトランスフォーメーション

設計・導入・チューニング・運用支援までAIトランスフォーメーションのコンサルになれる



## 責任の再設計

「技術の民主化」だけでなく、「責任の再設計」を担える人材へ



# AIが代替しにくい領域

## 時間と歴史

文脈と積み重ね、経験に宿る価値

## 体験とエンタメ

ライブ性、共感、偶然、不確実性

## 土地と場所性

リアルな空間性、地域文化、身体性

## 意味と哲学

単なる情報ではなく、解釈と価値判断

# フィジタルのデザイナーとしての役割

## 1. 橋渡し役

デジタルとフィジカルを橋渡しする  
新しい設計者

## 4. リアル価値

リアルで価値が生まれる場所に  
技術を持ち込める力



## 2. 新領域創出

地域×IoT、観光×Web3、商業施設×AI接客、体験型UI設計など

## 3. 空間技術

「現場」や「空間」とつながるテクノロジー設計に強いエンジニアが必要

# コンテキスト・アーキテクトへの進化



## 文脈設計力

単なる機能設計ではなく、「文脈を設計する力」が重要に



## ストーリーテリング

ストーリーテリング、UX設計、文化的理解が求められる



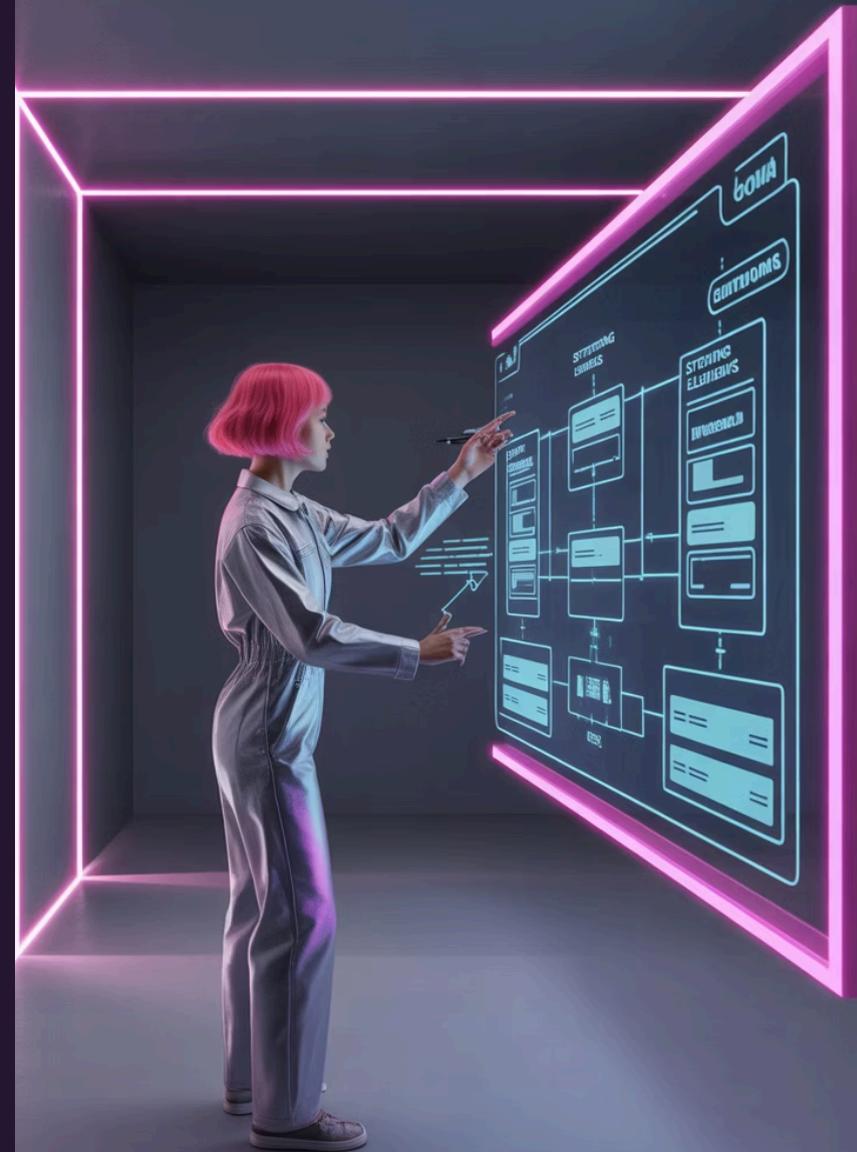
## AGIの限界

AGIは「文脈を与えられると強い」が、「文脈を創る」のは苦手



## 意味の連続性

意味の連続性をデザインできるエンジニア＝文脈設計者



# テック×ガバナンス：信頼と責任を担う立場



## 説明責任

AIの判断がブラックボックス化の中で説明責任の担保が必要



## 技術的対応

Explainable AI (XAI)、ゼロ知識証明、セキュリティ設計など



## 社会実装

社会実装には透明性・安全性・倫理設計の視点が欠かせない



## 橋渡し役

技術と現場の両方を理解するエンジニア出身の人材がその橋渡し役に

# オルタナティブ創出者としてのエンジニア



## 創造的問い

エンタメ、アート、体験設計など「正解のない問い」に関わる



## 偶然性の設計

AIでは難しい"偶然性"や"ゆらぎ"、"遊び"の設計



## 創造領域

ゲーム設計、インスタレーション、生成アートなど

人の感情や倫理に届く問いを仕込む技術者  
=創造的エンジニア

# 生態系思考のエンジニア = 意味と現実をつなぐ翻訳者



## 共存設計

人・AI・社会が共存する持続可能な仕組みを設計する力



## 新しい仕組み

DAO設計、トークンエコノミー、Web3ガバナンス、社会実験など



## 翻訳者の役割

抽象と現実、意味と行動をつなぐ"翻訳者"としての進化



## 未来の設計者

エンジニアは「次の時代の構造」を描ける設計者であり続けられる

